International Student Center News

金沢大学
留学生センター
ニュース

Vol. 14
December 2010

金沢大学留学生センター企画　TOEFLセミナー 2010年

空手道クラス　2009～2010

プリンストン in 石川（PII）プログラム 2010

ジャパン テント 2010「日本武道体験・杖道」

全学留学生対象　スキー講習会

新しい時代を迎えつつある留学生センター

志村　恵（留学生センター長）

金沢大学は留学生30万人計画および大学自身の国際化の方針のもとに、2009年度下半期から大学院の特別枠奨学制度を実施し、その結果、2010年5月現在の留学生数が491名と前年に比べて約150名増加した。これに伴い、留学生センターもさまざまな対応を行った。

まず､増員された留学生の日本語学習に応じるため､総合日本語コースのクラス数を増やした。ＡＡクラスからＦクラスまでの７レベルのノーマルクラスと漢字クラスおよび技能別クラスという従来の枠組みを維持しつつ、クラス規模の大きいレベルはダブルクラス方式とした。また、この拡大した総合日本語コースの運営の円滑化を図るために専任教員を一名増員した。これらの対応策によって増加した留学生の日本語学習に十分答えることができたと喜んでいる。また､留学生たちの熱心な日本語学習の姿勢に大いに励まされた。

次に、留学生センター内の短期留学プログラム（KUSEP)、日本語・日本文化研修コース、後述のショートセメスタープログラムなどの各プログラムの垣根を低くし、それぞれの授業を利用しあったり、共同運営するなどの改革を行った。これにより、留学生同士の交流だけではなく、特に日本人学生とのジョイントクラスにあっては日本人学生との交流がより深く進められた。今後は、日本人学生との交流がさらに進むようにジョイントクラスを増やすと同時に、通常の専門科目への留学生の参加を促していきたい。

最後に、特別枠のスキームの中で、留学生センターが実施責任の「ショートセメスタープログラム」を創設したことを挙げたい。ショートセメスタープログラムは、今年度はオーストラリア国立大学とゲント大学（ベルギー）を対象にして実施し､15名の参加を得た。このプログラムは､週に5 クラスの日本語の授業および日本文化体験クラスを必修とし、さらに学生の関心ないしは必要（ゲント大学にあっては、当該学年に必要とされている専門科目）に応じて、留学生センター開講の科目や学域の専門科目を履修するものであった。4月から7月までの４か月のコースではあったが、それぞれ充実した留学生活を送った。百万石祭りをはじめとした地域の行事に参加したり、中にはサークル活動に汗を流す学生も見られた。このショートセメスタープログラムは､特に時期と期間が参加しやすいと大変に好評であり、またコース内容も十二分に留学生の要求に答えられているので、来年度からは対象校を増やしていく計画である。

留学生センターは､以上のような新しい取り組みに加えて､旧来のプログラムに対して評価・検討を加え､大学の国際化をリードするためにも､より多彩なプログラムを提供していきたいと考えている。

相談指導部門

秋学期から金沢大学に入学された留学生の皆さん、ようこそ金沢大学へ
そしてすでに金沢大学の学生である留学生の皆さん、寒い季節の到来です。風邪など引かないように注意して、冬を楽しく過ごしましょう！

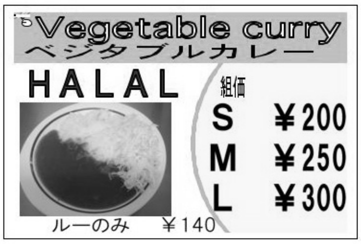
お知らせが2つあります。

お知らせ 1　Halal（ハラール）フードの提供が始まりました！

ムスリム学生たちの念願であったハラールフードの提供が、2010年の11月から開始されました。自然研1階の生協食堂に行くと食べることが出来ます。メニューは、今のところ、ベジタブルカレー、チキン唐揚げ／ステーキですが、ムスリム学生だけでなく、誰でも食べることが出来ます。

ハラールフードには、プライスカード等に Halal の表示がつけられ、混同がないよう、提供するコーナーも、昼は丼・カレーコーナー、夜はカフェテリアコーナーで販売しています。

ムスリム学生向けの調理マニュアルや、日本人学生向けのハラールとは何かを説明した掲示も準備してありますので、是非ご覧下さい。



お知らせ 2　交通事故に注意！

留学生が被害者になる交通事故にはいくつかの共通点が見られます。

1. 時間帯　　薄暗くなる時間　夏では19時頃　冬では17時頃
2. 天候　　雨や雪が降っている時が多い
3. 場所など　　横断歩道を傘をさして自転車で走行中
4. 事故の状況　　右折する自動車に衝突される

夕方には帰宅を急ぐ車が多いため、いつも以上に注意することが事故を防ぐことになります。また、車を運転する側の学生も、上記の4点を覚えておき、安全運転に努めてください。

文化体験学習　「いしかわ金沢学」
(Kanazawa Studies in Ishikawa)

○秋コース（Autumn Course）

日時：平成21年11月4日（水）
場所：湯涌みどりの里（金沢市）
内容：石川県教育委員会が実施する「教育ウィーク」への協賛事業として開催している秋コースでは、そば打ち体験と江戸時代の農家が立ち並ぶ茅葺き農家群の見学を行いました。学生達は生地を均一に伸ばしたり、切ることが出来ず悪戦苦闘しているようでしたが、初めてのそば打ちを堪能した様子でした。その後は隣接する茅葺き農家群に場所を移し、昔ながらの智恵が凝縮した日本家屋を見学することで、江戸時代の農民の暮らしを垣間見ることが出来たようです。

○冬コース（Winter Course）

日時：平成21年12月19日（土）～20日（日）
場所：国立のと青少年交流の家（羽咋市）
講師：下村利明氏（加賀友禅作家）
内容：1泊2日で下村利明氏を迎え、下絵から彩色までを体験する冬コースを開催しました。初日は加賀友禅の歴史や特徴について講義で学んだ後、「青花」「のり置き」「地入れ」の工程までを体験し、二日目には「彩色」をしました。学生らは慣れない筆の扱いに戸惑いながらも挑戦し、写実的な加賀友禅の世界を楽しみました。また、実際に着てみたいという希望に応えて開催した着付けコーナーは好評であり、喜んで写真を撮る姿が見られました。

○特別コース（Special Course）

日時：平成22年2月15日（月）

場所：金沢大学地域連携推進センター

講師：前古孝人氏（沈金師）

内容：伝統工芸である輪島塗に、沈金を施して夫婦箸を作る特別コースを開催しました。前古孝人氏から輪島塗の工程や特徴、沈金の技法について説明を受け、ひとつひとつの工程に高度な技術が必要となる輪島塗と、ノミで繊細な装飾を創り出す沈金の優美さに触れました。同じデザインでも彫り方により、全く違う表情を見せる沈金の表現力や奥深さを感じることができたようです。

○春コース（Spring Course）

日時：平成22年5月30日（日）

場所：金沢大学地域連携推進センター、金沢大学第2体育館

講師：中野節子教授（金沢大学人間社会研究域歴史言語文化学系）。剣道：中橋文夫氏（教士7段）、平野節夫氏（3段・杖道2段）、大原寅光氏（3段）。杖道：佐々木繁氏（教士7段）、ビットマン ハイコ教授（金沢大学留学生センター）（5段）、岡本直子氏（4段）、金子恭子氏（2段）

内容：「武道に見る心技体　日本武道入門」をテーマとした春コースを開催しました。まず、午前中は金沢大学の中野節子教授に「城下町金沢」に関する講義を受け、金沢の武家文化や豊かな加賀百万石の藩政について学びました。午後からのNPO法人日本武道修学院の講師らによる武道体験では、講師らによる杖道と剣道の演武や説明を行った後、実際に竹刀や杖を手に体験しました。参加者からは笑顔とともに充実した感想が聞かれ、心地よい疲労感とともに講座を終えました。

○夏コース（Summer Course）

日時：平成22年7月3日（土）

場所：石川県立能楽堂　本館第二舞台

講師：藪 俊彦氏（宝生流シテ方能楽師、金沢大学客員教授）、西村 聡教授（金沢大学人間社会研究域歴史言語文化学系）

内容：「講義・体験・観能で学ぶ　能楽入門」をテーマとした夏コースを開催しました。まず、藪俊彦能楽師により、舞台で使用する能面や能楽器、所作や声の出し方などの説明と体験を行いました。その後、西村聡教授から「能楽の楽しみ方」と題した能楽の基礎講義を受け、最後に石川県立能楽堂「観能の夕べ」にて狂言と能を鑑賞するコースでした。日本に伝わる伝統芸能の能楽にじかに接することで、伝統文化の価値を考えることができたようです。

「プリンストン in石川（PII）プログラム 2010」

6月16日、（旧）文学部と部局間協定を結んでいるプリンストン大学がコーディネートするプログラムの学生たちと、本学学生との交流会を実施しました。参加したのは県が実施する「石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム」（PII）で来県したプリンストン、ハーバード、コロンビア、イエール等で学んでいる大学生51名。留学生一人ひとりと、本学の学生がペアを組み、エスコート役を務めました。キャンパス内にあるレストラン「すみれ亭」での会食後、創立五十周年記念館「角間の里」で本学の紹介を兼ねたクイズが行われ、またPII側からもアメリカに関するクイズが出題されました。その後、ものすごく難しい課題である折り紙のしおり作りに挑戦した学生たちは、さらに交流を深めました。折り紙を教える側も教わる側もともに大いに苦労したようです。そのせいか、僅か3時間の交流会の終わりには、別れを惜しむ姿があちこちで見られました。

金沢大学セメスタープログラム
新プログラムの紹介

コース紹介

セメスタープログラムは、今年度からスタートした、春学期だけの短期留学プログラムです。本学と交流協定を締結している大学から多くの留学生を受入れ、日本語能力の向上と日本文化への理解を深めることを目的としています。また、短期留学ではなかなか得にくい地域住民との交流も文化体験授業を通して行い、短期間で効率的に日本を学び、日本と諸外国を結ぶ架け橋となる人材を育成することを目的としています。

第一期セメスタープログラム閉校式

第一期生について

第一期はオーストラリア国立大学（ANU）から10名、ベルギーのゲント大学（Ghent University）から 5名、合計15名が参加しました。ANU の学生は金沢駅前の民間ゲストハウスに滞在し、ゲント大学の学生は金沢市笠舞にある民家で共同生活を行いました。

来日直後は、初めての一人暮らしや、日本語だけの生活、日本家屋独特のライフスタイルに苦労している様子でしたが、次第に日本での生活を楽しむようになり、帰国を惜しむ学生も多く見られました。また、ANU とゲント大学の学生間の交流、KUSEP生との交流、日本人学生との交流も活発に行われました。

既に 1名は来年1年間の留学生として戻ってくることが決まっています。今後も、金沢大学への気軽な入り口プログラムとしての期待が高まります。

百万石まつりの踊り流しに参加するセメスター学生

金沢文化体験演習

セメスタープログラムでは毎週火曜日の午後、文化体験演習を行いました。座禅、茶道、工場見学など様々な体験を行いましたが、特に人気が高かったのは金箔張りと九谷焼の絵付けです。精巧さと豪華さを兼ね備えた金沢の伝統工芸に、それぞれの個性が加わり、独創的な作品が数多く作られました。

学生による金箔作品

九谷焼絵付の様子

ランチョンセミナーでの発表会

ゲント大学の学生は、昼休みに日本人学生を前に日本の文化とそれぞれの文化を比較したテーマの発表会を行いました。マンガ、祭り、お城、若者、ファッションをテーマに、どういう違いがあり、その違いは何に基づくものなのかを分析し、独自の視点でまとめて発表しました。日本人学生からは、自分たちが気づかなかった日本文化の側面を学べたと大変好評でした。

松田真希子、太田　亨、志村　恵（セメスタープログラム担当）

藤澤美保（事務担当）

新しい先生の自己紹介：松田真希子先生

2010年4月に新潟県の長岡技術科学大学から着任しました。現在、短期留学（セメスタープログラム）や予備教育プログラム（日韓・研修）を主に担当しています。私は15年前、金沢大学文学部で 4年間をすごしました。お城の中のキャンパスで学んだ最後の世代です。15年後、再び母校に戻ってくることができて、とても嬉しく思っています。留学生に金沢大学や金沢の魅力を満喫してもらえるようがんばります。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

国際教育研究部門

留学生のみなさん、金沢大学にようこそ！

金沢大学留学生センターでは、本学における大切な任務の一つとして、本学学生の留学支援を行っています。そのため、学内の関係部局や交流協定校とも連携しながら、いろいろなイベントや学習の機会を企画し、実施しています。留学生のみなさんにも、ぜひ参加していただきたいものもたくさんありますので、今後のお知らせを楽しみにしていてください。

さて、今年度の『留学生センターニュース』では、昨年度に引き続き、本学の留学制度により一年間の海外留学を終え、一段とパワーアップして戻ってきた学生からの留学生のみなさんへのメッセージを紹介します。今年度は、現在文学部4年生の池端富士美さんからのメッセージです。

斉木麻利子（国際教育研究部門担当）

留学生のみなさんへ

文学部英語英文コース４年　池端富士美

留学生のみなさん、こんにちは！ そして金沢大学へようこそ！ 10月から始まったみなさんの金沢大学での新しい生活はどうですか？ 想像していた日本のイメージと比べて実際の印象はどうですか？ 毎日うれしいこともあれば、落ち込むこともあると思いますが、多くの人が日々新しい友達に出会い、新しいものを発見しているとうれしいです。

私も皆さんと同じように、今年の5月までの1年間、留学生でした。私はアメリカのタフツ大学に留学したのですが、初めての一人きりの海外生活で、最初のころは緊張と不安でいっぱいいっぱいでした。ですから、金沢大学に留学しているみなさんが自分の国との文化の違いや日本人が持つ独特の考え方に戸惑ってしまう気持ちはよく分かります。そこで、みなさんが楽しく充実した留学生活をおくれるよう、いくつかアドバイスさせてください。

まずは、自分の日本語に自信を持ちましょう。留学生の中には驚くほど日本語が上手な人もいれば、日本語を勉強し始めてまだほんの数か月という人もいます。もちろんネガティブスピーカーのようにスラスラ話せることも大切ですが、留学中に最も必要とされるのは、積極的に日本語を話そうとする姿勢だと私は考えます。みなさんの中には、日本人はあまり留学生と仲良くしてくれない、と感じたことのある人もいると思いますが、決して誤解しないでください。それは日本人学生が単に冷たいというのではなく、留学生と話すときは日本語以外の言葉を話さなければならないと思い込んでいる学生が多いからです。ですから、みなさんの方から日本語で話しかけるようにすれば、日本人学生も自然と楽な気持ちで接してくれるはずです。そして、何よりも間違うことを恐れないでください。たとえ日本語の文法が間違っていようが、発音が少し違っていようが問題は全くありません。一番大事なのは、留学生と金沢大学の学生がお互いの気持ちを理解し、

距離を縮めていくことなのです。そうすることで、自ずと良い友人関係が築けるはずです。

また、自分の国の文化をどんどん日本人学生に向けて発信してください。日本人はいろいろな国籍の人々と共存することに慣れておらず、他の国の素晴らしい文化や習慣に直接触れる経験があまりありません。そのため、多くの日本人学生は留学生のみなさんがどのような生活をしてきて、どのような考え方をするのかにすごく興味があります。実際、私が留学していたタフツ大学にも日本文化のクラスがあり、その授業は日本について勉強したい学生に大変人気がありました。他にも、キャンパス内にはいろいろな文化サークルがあり、自分たちのバックグランドにある文化を様々な形で紹介していました。しかし、せっかく金沢に来たのですから、金沢が誇る伝統文化や昔ながらの建物、そして金沢の人の温かさをみなさんも共感してくれるとうれしいです。

それから、時間があるときはどんどん出かけてみましょう。金沢は小さい街ですが、兼六園や金沢城をはじめとして古い街並み、寺院、茶屋街など映画でも使用されるような数々の素晴らしい風景に出会えます。また、自然も多いので、春の桜、夏の青葉、秋の紅葉、冬の銀世界など季節の移り変わりも目で楽しむことができます。四季のある日本をぜひ体感してみてください。そして最後に忘れてはいけないことは金沢のおいしい食べ物です。新鮮な近江町市場の魚もいいですが、片町の居酒屋で盛り上がらなければ金沢に留学したとは言えません。一度気の合う仲間と一緒にお酒をのみながら語り合ってみてはどうでしょうか。きっと忘れられない最高の思い出になるはずです。

日本で新しい生活を始めたみなさんは、早く留学生活に慣れたいがために日本人がどんな行動をとるのかをまず理解しようと努力するかもしれません。そして、必死になってそれに適応しようとしてしまう場合もあるかもしれません。けれども相手に自分自身を知ってもらうことも時には重要となってきます。ですから、決して無理はせず、自分のペースで少しずつ前に進んでみてください。そして、悔いの残らないよう、やりたいと思ったことはためらわずに全て実行してください。そうすれば、みなさんの留学生活は自然と充実したものになるはずです。みなさんの毎日がきらきらと笑顔でいっぱいになるよう応援しています！

金沢大学短期留学プログラム（KUSEP）

私の金沢大学短期留学プログラム体験

Kwan, James

オーストラリア、オーストラリア国立大学

こんにちは、オーストラリアから金沢大学短期留学プログラム（KUSEP）に留学していたジェームズです。よろしくお願いします！

僕は2009年度の秋から一年間、金沢大学でまたとない経験をしました。オーストラリアで日本語を専攻し勉強し、日本で日本語、日本文化についてもっと知りたいと思ったのが留学のきっかけです。

金沢大学では、想像以上に多くの事が経験できました。僕はKUSEP留学生として、日本語の勉強にはたくさん時間をかけました。日本語クラスで日本語を深く勉強しながら、いろいろな国からの留学生とも交流しました。また、先生方は留学生が宿題をするのをいつも手伝ってくれたし、サポートしてくれました。そして日本語クラスだけではなく、日本文化に関するクラスもたくさんありました。特に、文化体験のクラスにおいては、色々な金沢の伝統工芸を体験し、技術を学ぶことができました。このことは、留学生の間で大変有意義なものだと評判でした。

また、金沢大学での留学生の勉強の場は授業に限りませんでした。僕は留学中に空手道の「教え」に関する『空手二十ヶ条』を母語の英語に翻訳させてもらいましたが、この経験に加え、ビットマン先生から実践の空手道を教えていただいたことで、空手道への理解を深めることができました。自分の専門分野の研究においても、金沢大学ではいろいろ助けてもらいました。特に、先生のお世話により、日本の弁護士についての自分の研究のために、専門家に会って話しをすることもできました。どのような研究や勉強をするにしても、金沢大学にはよい環境が整っていると思いました。

金沢大学には学生の活動がたくさんあり、時間がある人なら自由に参加できます。どのような興味であっても、自分に向いているクラブやサークルがあると思います。留学生にとって、クラブに参加することは、日本人の大学生と仲良くなる良い方法であり、授業外で日本らしい活動を経験できる良い機会でもあります。僕自身は空手クラブとボクシング・サークルに参加したことで、多くの日本人の大学生とよい関係を築くことができましたし、試合に出た経験も忘れられません！

留学中僕は寮に住んでいましたので、常に友達に囲まれていて楽しかったです。毎日色々な留学生と文化交流できたことも嬉しかったです。また、寮の近くにはスーパーやレストランがあったので、快適に過ごすことができました。留学生の住居は寮だけでなく、学生が数人で一つの家に住むシェアハウスという選択肢もあります。僕の友達はその一つに住んでいたので、同居学生と仲良くなって、まるで家族のようでした。

金沢は、本物の日本が経験できるすばらしい町だと思います。金沢大学での経験や友達のことは、一生忘れません！

新しい先生からのメッセージ

皆さん、こんにちは。2010年4月から、金沢大学留学生センターで日本語教育を担当している深川美帆です。主に総合日本語コースとKUSEPの日本語教育を担当しています。私は金沢大学で学ぶさまざまな留学生の皆さんの役に立ち、そして満足してもらえるような日本語学習の環境を作りたいといつも考えています。ここでは、KUSEPプログラムについて簡単にご紹介するとともに、これから金沢大学で学ぶ留学生の皆さんにメッセージを送りたいと思います。

金沢大学短期留学プログラム（Kanazawa University Short Exchange Program）は、金沢大学と交流協定を締結している大学等からの留学生を対象とした1年間のプログラムです。金沢大学は現在24の国・地域の78の大学と交流協定を締結しており、毎年それらの大学からこのプログラムに参加しています。今年度は26の大学から42名の留学生が金沢大学を選んで来てくれました。

KUSEPの特色として挙げられるのは、まず、実に多様な日本文化体験ができることです。「日本文化体験」の授業では、茶道や生け花をはじめ、金箔工芸、大樋焼の体験など、金沢ならではの伝統文化、伝統工芸に触れることができます。また、「武道」の授業では、空手や杖道などを本格的に学ぶことができます。これらは、伝統と文化が豊かな金沢だからこそ体験できるものばかりです。ここ金沢大学でしかできない貴重な体験を楽しんでください。

大樋焼（2009年度秋学期）

次に、このプログラムに提供される日本語コースでは、初級から上級までのレベル別のクラスに加え、作文、レポートや読解など、様々な技能別のクラスを開講しています。留学生の皆さんのほとんどは、日本に留学に来たからには、自分の日本語力を今よりもさらに高めたい、日本語でうまくコミュニケーションできるようになりたい、と思っていることでしょう。その力をつけるためには、「自分がこの1年でどんなことができるようになりたいか」をイメージして、それを忘れずに勉強を続けることです。日本語の勉強のことで困ったときやどのように勉強したらいいかわからないときは、どうぞいつでも気軽に相談に来てください。このプログラムでの経験や人々との出会いをきっかけに、皆さんの金沢での留学生活が充実したものになるよう、いつも応援しています。

総合日本語コース（作文Ⅰ）授業

深川美帆（KUSEP・総合日本語担当）

大学院予備教育（日本語研修コース）

　このコースの学生は、ゼロ初級からの日本語を集中的に一学期間勉強します。1995年10月に第1期生を、2010年4月には第30期生を迎えました。2004年からは、午前中の日本語クラスをＡＡクラスとしてKUSEP生や研究生にも開放しています。留学の目的の異なる学生たちが、仲良く一つのクラスで勉強します。

　今回は、第30期の修了生、インドのサティアさんがクラスの思い出を英語で書いてくれました。サティアさんは日本語を一つも知らずに来日しましたが、毎日よく勉強して、コースの終わりには立派な研究発表を日本語で行えるほど上達しました。日本語の勉強は苦しいことも多かったはずですが、サティアさんとクラスメートたちは、「楽しむ」ことがとてもじょうずでした。言葉の学習の大切なポイントですね。

三浦香苗（日本語研修コース担当）

Learning Japanese: The Fun Way

Sathya Sheela Subramaniam

With no prior knowledge of Japanese, I entered the AA class of Japanese, being skeptical with no idea of whatsoever of how Hiragana or Katakana looked like. In the beginning they all looked the same, having similar curvy designs out of a modern art. I clearly remember the first day of our class when we had a test of Hiragana characters and I couldn't make a head or tail out of anything. But as time passed on, our whole class progressed, with us sometimes conversing and cracking jokes in our own broken Japanese. The course was so intensively designed that in a few months we were able to understand the Japanese and sometimes even do small talk with them whom we met on the road. From the basic greetings to everyday Japanese, the course has it all. We would often complain about the daily homework and numerous vocabulary tests, but they actually helped us to learn and improve our conversation skills. The class was really very enjoyable. The teachers were very friendly and taught in such an efficient way, making us practice our pronunciation again and again. The reason I enjoyed the class so much was that the teachers had a very unique way of teaching making the class interesting, and their enthusiasm always rubbed off on us. We were always laughing and enjoying ourselves in class, and in this very friendly environment, we learnt a great deal. Also we could always share ideas with Japanese students from many different parts of the country, who have proven to be friends for life.

Miura Sensei and her group of teachers are among the best I have seen in teaching a language to a group of novice. The field trips to Shirakawago and Gokayama opened doorways to the ancient culture of the Japanese. Not only did we get to see the old houses and the rural life, but we also felt more in tune with nature there with lovely valleys and the sparkling river. Be it the tea ceremony classes, calligraphy classes or the karate classes, we got a glimpse of the culture of Japan. An interesting part of the class was VOTAK, where we could converse with the Japanese students as well as foreigners who had mastered the language. This interaction not only brought forth many friendships but also insight into the traditional art of Yuzen dyeing. Our visit to Noh theatre and the Zazen introduced us to the cultural aspect of Japan. Presentations such as ‘Watashi no kuni’ and the research through survey gave us a lot of opportunities to interact with Japanese students and to learn about various aspects of life in Japan. Be it repeating the vocabulary or watching Totoro or other Japanese cartoons or singing Japanese songs in class, learning Japanese the fun way helped us to generate interest and proficiency in the language. Thanks to the Intensive Course teachers, life in Japan is a lot easier than before.

日本語・日本文化研修プログラム
——留学生センター着任にあたって——

日本語・日本文化研修生（以下「日研生」と略して記す）は、金沢大学留学生センターに属するコースの中でもアカデミック色の比較的強いコースであり、世界各国から日本語上級 レベルの学生を受け入れています。このコースで学習する学生は、一年間の研修期間の集大成としての 修了研究 を完成させるため、渡日後数ヶ月の間に研究テーマを決め、日本語学習と平行する形で 修了研究 を進めて行くことになります。

2010年4月以降、私は当プログラムを引き継ぐこととなりましたが、これまで日研生が残してきた多種多様なテーマにもとづく 修了研究 レポートを読むにつけ、前任のルチラ・パリハワダナ先生がいかにこのプログラムに心血を注いでこられたかを実感しています。

当センターに着任する以前、私は台湾の大学で日本語や日本文化関連科目を教えていました。台湾にはかれこれ四年半ほどおりましたが、それまで日本でしか仕事をしたことのなかった私にとって、この期間は大変貴重な経験であったといえます。大学では主に日本の大学との協定締結や日系企業でのインターンシッププログラムの策定といった仕事に携わりました。とりわけ思い出深いのは日本のリゾートホテルでの研修プログラムの立ち上げです。

ちょうどそのころ日本では、研修を名目とした外国人による不法就労が問題となっていた頃で、日本語学習を目的とした研修であってもなかなかビザがとりにくい 状況 でした。また、このようなプログラムは台湾の大学では前例のないことであったため、学内においても反対意見が根強く、実施に至るまでには紆余曲折がありました。しかし、幸い同じ学科の教員の多くが非常に 協力的 であったため、なんとか実施までこぎつけることができました。

このプログラムを通じて、台湾の学生たちは日本各地のリゾートホテルに夏期休暇を利用して二カ月ほど住み込み、日本人 従業員 と寝食をともにしながら、客室清掃やベッドメイキング、厨房での助手やフロントといったホテル業務全般に関する各種の研修を行うわけですが、参加した学生のなかには、アルバイトすらしたことのない学生も多数おり、研修開始から最初の二週間は、携帯が鳴れば必ずといって良いほど心細げな学生達の声を聞く毎日でした。しかし、次第にその回数も減っていき、二カ月間の研修を終えるころにはもはや私の助けなど必要としないだけのたくましさを身につけていました。

日本語に関しても、会話能力の向上はもちろんのこと、帰国後の日本語に対する学習態度の変化には予想以上のものがありました。それも、彼ら自身が実際に日本での生活を通じて日本語を用い、そして日本語を学習する目的と意義を再確認したからにほかなりません。

日本以外の国々で日本語を学習している学生の場合、日本で生活している留学生と比較すると当然のことながら日常的に日本語に接する機会は少なくなってしまいます。そのため、いかに学生の学習動機を維持するかという問題は、海外の日本語教育機関で日本語を教えている教員であれば誰しもが直面する課題であるといえるでしょう。そういった意味においては、わずか二カ月の期間とはいえ、日本のホテルでの研修を通じて実際に日本で生活しながら、日本文化を体験し、自らの日本語レベルを確認することで、自分に何が足りないのかを考える機会を得たことは、日本語を学習する上での動機を維持していくための大きな原動力となったのだと思います。

また私自身、このプログラムを通じて、こういった学生が「自ら気付く」ための枠組みを作っていくことが、学生の指導において驚異的な効果をもたらす契機となることを学ぶことができました。

私が金沢大学に着任してから、はや９カ月が経ちましたが、その間第15期生も無事 修了 し、秋にはまた新たに６カ国11名の第16期生を迎えました。

そんな彼らが金沢に来て最初に行ったのが、日本の高校生達とのワークショップです。このワークショップは、高校生と留学生が共通のテーマについてそれぞれ発表を行い、議論をするというもので、日研コースではこれまでも何度か行ってきた企画ですが、今年初の試みとなっ

たのは、テーマ設定から発表準備、当日の会場設営、司会に至るまですべて学生主導で行ったことです。

まず、事前の打ち合わせでは、高校生と留学生がそれぞれ興味のあるテーマを持ち寄り、それらの中から、「日本の美しさ」「世界各国のオタク文化」という二つのテーマを決定しました。その後、双方がそれぞれの視点からこれら二つのテーマに関する発表をすべく準備にとりかかり、約二カ月をかけてプレゼンテーションを完成させせました。

途中何度か私の方で内容の確認や日本語の指導は行ったものの、基本的な論旨には一切口を出さないようにし、一から十まで学生による手作りの発表が出来上がりました。

ワークショップ当日は、高校生と留学生が交互に共通のテーマに対するプレゼンテーションを行い、その後フリーディスカッション形式での討論会を実施しました。

第一部の「日本の美しさ」では、留学生が感じた日本の美しさと、高校生が考える日本の美しさを比較することで、日本文化に内包される美意識が留学生にはどのように映り、そしてそれを高校生がどう感じるのか、といった点を中心に議論が交わされました。

そして第二部では、まず高校生が日本の典型的なオタク像を示した後、留学生たちがそれぞれの国のオタク文化について実例を交えながら紹介しました。このテーマについては高校生・留学生ともにかなりの力の入れようで、タイやベトナム、韓国、中国のオタクのイメージと日本のオタクとの共通点、相違点といった点について様々な意見が出されました。なかでもオタクの定義が国によって全く異なることや日本のオタク文化の各国における浸透の度合いについての話は、傍らで聞いていた我々教員にとっても非常に興味深い内容でした。

このワークショップを企画した当初、我々教員側が危惧していたことはすべて学生に任せてしまうと、議論が成立せず、一方的な意見表明に終始してしまうのではないか、ということでした。しかし、実際蓋を開けてみると高校生も留学生もお互いの意見にきちんと耳を傾けながら、発展的な意見交換ができており、普通であれば返答に窮するような質問に対しても、一生懸命自分の言葉で伝えようとしていたのが非常に印象的でした。

ワークショップ終了後、高校生・留学生それぞれに感想を聞いたところ、もっとも多かった意見は、自分たちの国についてもう少し知らなければならない、というものでした。とくに留学生の場合は、日本での生活において本国のことについて聞かれる機会も多く、日本に来て初めて自分の国の良さに気付くといったケースも少なくありません。今回のワークショップはそういった意味においても、自らの文化を見つめなおす一つの機会となったのではないかと思います。そして、もうひとつの良い意味での副産物は、渡日して間もない学生たちが、役割分担やスケジュール調整を自ら行い、共同作業を進めていく過程で、徐々に当事者意識を育み、協力しながら一つの企画を完成させせることを学んでくれたことであったといえるでしょう。

山本　洋
（日本語・日本文化研修プログラム担当）

総合日本語コース

総合日本語コース　オンライン履修登録開始！

金沢大学留学生センター総合日本語コースは、金沢大学に在籍する留学生や研究者のための日本語学習のためのコースです。初級から上級までの幅広いレベル展開に加え、漢字、読解、作文などの技能別のクラスもありますので、学習者は自分のレベルや勉強したいスキルに合わせてクラスを選ぶことができます。

総合日本語コースでは、2010年度秋学期からオンラインによる履修登録システムを導入しました。総合日本語コースを受講したい学生は、インターネットに接続された PC から直接日本語コースに申し込むことができます。さらに、この履修登録システムでは、授業のシラバスを見ることもできます。

この履修登録システムによって、留学生センターは日本語コースを履修したい学習者の数や学習者のニーズなどを即座に知ることができます。私たちはこれらの情報をコース改善とさらなるコースの充実に役立てたいと考えています。

総合日本語コース履修登録システムは、留学生センターホームページからアクセスできます。また、留学生センターホームページには、この他にも日本語コースに関するいろいろな情報があります。是非、見てみてください。

峯　正志、深川美帆、松田真希子（総合日本語コース担当）

■総合日本語コース履修登録システムへのアクセス

URL: http://isc-ijc.ge.kanazawa-u.ac.jp/

留学生センターホームページ

http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp

ログインメールアドレスと

パスワードを入力する

Information from the Integrated Japanese Language Program
Online Course Enrollment System has started!

The Integrated Japanese Language Program is designed for all international students studying at Kanazawa University. In this program, a variety of courses are offered which range from the introductory level to the advanced level based on the students' overall proficiency in Japanese. Moreover, skill-specific courses are offered, including the Reading, Writing, and Listening courses in the introductory, intermediate and advanced levels, and students can choose to enroll in them as necessary.

In Fall Semester 2010, the Integrated Japanese Language Program introduced the Course Enrollment System on the web. Through this system, the international students are now able to register for the Japanese courses on the Internet. They are also able to view a course schedule and a detailed course syllabus on their PC screen too. In addition, the instructors are able to find immediately the number of student enrollments in each course as well as each student's needs in learning the Japanese language.

Finally, referring to the information on the Course Enrollment System, we have determined to improve our Japanese courses further. Please visit the website of the International Student Center for the System.

Integrated Japanese Language Program
Masashi Mine, Miho Fukagawa and Makiko Matsuda

シラバス閲覧　Browse Syllabus

見たいクラスをクリックする

履修登録　Course Enrollment

履修したいクラスをクリックする

踊り流し

日時：平成22年6月５日（土）

場所：片町～南町

内容：第59回百万石まつり２日目の夜に行われた「百万石踊り流し」に「金沢大学留学生センター いしかわ金沢学」チームとして、金沢大学の留学生・日本人学生、および教職員の総勢93名が、揃いのはっぴと豆絞りで熱気あふれる踊りを披露致しました。

「百万石踊り流し」は、国道157号線片町～上堤町の区間で、企業・団体・グループによる踊りの輪が通りを埋めつくします。金沢市民に親しまれている「ふれあい音頭 いいね金沢」「金沢ホーヤネ」「百万石音頭」の３曲にあわせて踊るこの踊り流しには、飛び入りコーナーも設けられるなど市民参加型の盆踊り大会です。

今年は68団体約10,000人が参加し、金沢大学留学生センターとしては昨年度に続き2回目の団体参加となりました。昨年は約30名の参加者で、本賞となる第2位を頂きましたが、今年は昨年の約3倍である93名が参加し、日本を含む14カ国からの金沢大学生が練習の成果を発揮し、息のあった踊りで祭りを盛り上げました。学生たちは「とても楽しかった」「良い思い出が出来た」など笑顔で答えていました。また、今年は「ハッスル賞」を受賞し、昨年に続く連続入賞となりました。

留学生センター組織（2010年度）

留学生センター長

志村　恵

留学生センター教員会議

日本語等教育部門

プログラム	担当
日本語研修コース 日韓共同理工系学部留学生コース	三浦香苗　松田真希子
日本語·日本文化研修プログラム	山本　洋　峯　正志
総合日本語コース	峯　正志　松田真希子　深川美帆
セメスタープログラム	松田真希子　太田　亨
金沢大学短期留学プログラム（KUSEP）	岡澤孝雄　斉木麻利子　ビットマン ハイコ　深川美帆

多文化共生部門

プログラム	担当
文化体験プログラム	八重澤美知子　山本　洋　岡澤孝雄　太田　亨　ビットマン ハイコ
相談指導	八重澤美知子　ビットマン ハイコ　松田真希子
派遣留学	斉木麻利子　三浦香苗

岡澤孝雄

峯　正志

三浦香苗

斉木麻利子

八重澤美知子

山本　洋

太田　亨

松田真希子

ビットマン ハイコ

深川美帆

学務課留学生係組織（2010年度）

学務課長

副課長（留学生担当）

木下弘子

留学生第二係

係長

西田幸代

係員

榎本　佳

事務補佐員

藤澤美保

事務補佐員

北谷　淳

ISICO嘱託職員

隅田希望

留学生第一係

係長

奥村陽子

係員

西田麻子

事務補佐員

吉田和美

専門職員

白木一成

留学生センターのホームページを知っていますか？

留学生センターのいろいろな情報が４つの言語で読めるようになりました。

留学生にもぜひ教えてあげてください。

日本語版URL
http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp

英語版URL
http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/eg/kuisc.html

韓国語版URL
http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/kr/index.html

中国語版URL
http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/ch/index.html

金沢大学留学生センターニュース　第14号

2010年12月28日発行

発行　金沢大学留学生センター
〒920-1192　金沢市角間町
TEL（076）264-5188
FAX（076）234-4043
ryuiku@adm.kanazawa-u.ac.jp

この冊子は、植林・森林認証取得木材使用など環境ISO取得工場にて作られた用紙を使用しています。